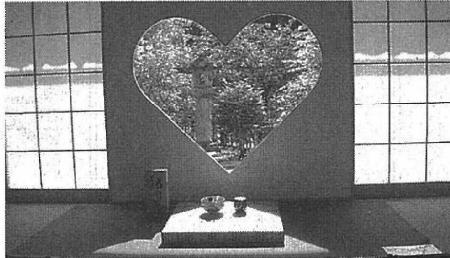




日本三大銘茶の一つ、宇治茶は鎌倉時代初頭に鷺峰山（京都府相楽郡和束町）山麓で茶が植栽されたのが始まりとされ、土質・地形等の自然的条件から和束町、宇治田原町、さらに周辺地域に茶畑が拡がっていったと考えられている。近年は抹茶スイーツ、ティーブームなどお茶への関心が高まっている。

日本で最も美しい村

和束町は「茶源郷」とも呼ばれ、約595㌶（東京ドーム約120個分）の茶畑を有し茶の生産量は府内の約42%を占め、抹茶の原料であるてん茶の生産量は日本一。町の約75%が森林で、先人たちが山を切り拓いた茶畑は美しい景観を形成している。その景観が評価され、08年



①和束町にある美しい石寺の茶畠（和束町提供）
田原町のハート寺院、正寿院
寺殿にあるハート型の窓

に京都府景観資産第1号登録、13年に「日本で最も美しい村」連合に加盟。15年には近隣市町村とともに「日本茶800年の歴史散歩」が日本遺産第1号に認定された。また17年度に開催した府南部地域を舞台にした「お茶の京都博」が好評で、これを機にマスクミから取材が大幅に増加した。

そのほか、農家民宿の後押し、インターネットや修学旅行生の受け入れも積極的に行っている。町内では外国人向けの体験プログラムや海外への輸出事業を行う

恵まれた自然とお茶文化で「お茶の京都」を売り込む和束町・宇治田原町

事業者もおり、茶業を中心とした事業は活況である。

近年の観光が「物見遊山型」から個々のニーズに合わせた「参加・体験型」にシフトしていくことにマッチし、観光客は5年前の約2・5倍に増加した。

今年1月には星野リゾートが和束町と京都府と「パートナーシップ協定」を締結し、今後和束町の茶業や景観を生かした魅力を地域興じを進めるために、16年に「和束町景観計画」を策定し、

まさに茶を中心とする生産の景観を守り観光や交流を通じた地域興じを進めるために、16年に「和束町景観計画」を策定し、

一般財団法人日本不動産研究所 ⑧ 地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

京都府「お茶発祥の地」

18年度は景観条例を制定し、建物高さや屋外広告物の規制を行う予定である。

町内の正寿院という寺院の客殿の猪口の窓の形がハート型であることから3年ほど前に「幸

下栽培」の開始（京都府立大学調べ）により、抹茶が出現した。千利休が大成した茶の湯は、宇治茶（抹茶）を第一とし、客をもてなすための茶室を様式として完成させた。現在でも千利休による「妙喜庵待庵」（京都府大山崎町）、三千家（表千家、裏千家、武者小路千家）の茶室

スイーツマップ作成やインスタグラム運動企画など「グチコミ」力を味方につけた地域興しが成

功し、16年の観光入込客数は約13・6万人（前年比約8%増）で7年連続の増加となり、マス

コミュニケーションの取材も増加している。

観光と居住のバランス

また、京都市の中心部へのアクセスが良好で、23年には新名神高速道路インターチェンジが宇治田原にできることから近畿圏での移動の利便性が向上する

ことから、茶業以外の就労機会にもバランスのとれた町としてブランド力を高めようとしている。町も和束町とともに宇治茶の産地として名を馳せており、丘陵地を中心に美しい茶畠が広がる。近年は総合計画将来像のサ

ブコピー、「やすらぎ・ぬくもり・ハートのまち」、ハート型の町の形状などで町内外各所を

打ち出している。

せを呼ぶ窓」として観光客がインスタグラムやSNSで情報拡散したこと、追い風となつている。女性グループや外国人観光客の増加を受け、無料の町内観光周遊バスの整備、「お茶×ハート」のMIX企画を開催し、

京都支所、不動産鑑定士・神

本文字）